

結果速報

2011年7月19日(火)

第22回マイクロマシン/MEMS展
第2回 ROBOTECH
SURTECH 2011
東京ビッグサイト 東1・2ホール
2011年7月13日(水) - 15日(金)

「第22回 マイクロマシン/MEMS展」「第2回 ROBOTECH」「SURTECH 2011」の三展同時開催
12,861名が来場!

今重要な先端技術が集結、業界の垣根を超えた活発な技術交流が実現!

2011年7月13日(水) - 15日(金)、東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東1・2ホールにて開催された、「第22回 マイクロマシン/MEMS展」、「第2回 ROBOTECH」、「SURTECH 2011」は盛況のうちに閉幕した。今年は大展で合計9カ国・地域から292関連企業、団体・研究所、教育機関が出展、12,861人が来場した。

来場者数	7月13日(水) [晴]	3,885人
	7月14日(木) [晴]	4,201人
	7月15日(金) [晴]	4,775人
	合計	12,861人

今回もマイクロマシン/MEMS技術や同分野と大きく関連するサービスロボット技術、そしてMEMSと融合した幅広い用途が見込まれる表面技術の様々な先端技術が発表された。中でも、今求められている災害・原発・省エネ対策に繋がる技術の研究発表や、プレゼンテーション・セミナーには多くの来場者から高い関心が寄せられた。総合イベント「マイクロナノ2011」として行なわれた同時開催プログラムでは、「第17回国際マイクロマシン・ナノテクシンポジウム MEMS Green Innovation」「災害ロボットの活動報告とこれから」といった注目のイベントが行われ、各回に熱心な聴講者が集まった。また、ROBOTECH テーマゾーンでも多様なプレゼンテーションが行われ、千葉工業大学による災害救助ロボット「Quince(クインス)」の実演や「原子力ロボット投入! 福島第一原子力事故の対応&教訓」では、震災の現場におけるロボットの先端技術の最新情報を入手しようという来場者が多数足を運んだ。

第2回目の三展合同開催となった今回、昨年以上に技術者間での活発な商談や交流が行われた。仙台市 経済局 産業創出部 産学連携推進課 事業化支援係 主事 和田 信也氏は、被災した宮城県をはじめとする東北6県からの出展の意気込みを語った。「マイクロマシン/MEMS展には、東北6県の研究機関が一丸となり、研究開発に挑む姿勢をアピールするために毎年参加している。特に今年は、こんな時だからこそ我々のものづくりに対する熱意や技術力をアピールしなければいけないと皆が思い、出展を決意した。6県が異なった分野の技術を紹介しているが、今回は異分野からの来場者も含め、技術相談を受けることが多いと感じた。また、ROBOTECHに登場した災害救助ロボットを見に来た方々にもブースにお立ち寄り頂くことがあった。マイクロマシン/MEMS展は、技術交流の場として最高だと思う。我々は国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト(iCAN'11)国内予選の主催も行なっているが、今年はiCAN11で優勝した京都大学学生チームの研究発表を、是非マイクロマシン/MEMS展で行いたいという思いも抱いて参加した。来年も是非出展したい。」

香川大学 教授 工学部 知能機械システム工学科 博士 澤田 秀之氏は、「ROBOTECHと、私達の研究分野が見事に重なっており、出展を決めた。今回の出展が、来場者の方々との共同研究開発や、新製品開発につながっていければ

と考えている。私達は今回触覚を提示する技術や、発話ロボット技術などを展示したが、様々な技術分野から多くの方々にお越し頂けた。この見本市を通して、産学官連携で技術発展に貢献していければ大変嬉しい。」と、出展の手応えを話した。

マイクロマシン/MEMS 展は、世界最大規模の MEMS 分野における国際見本市であり、日本の出展者だけでなく、海外の出展者にとっても自社・自国の技術を紹介する貴重な場となっている。今回は海外より 8 カ国(アメリカ合衆国、オーストリア、カナダ、韓国、スウェーデン、ドイツ、フランス、メキシコ)から 16 社が出展した。Research & Technology (リサーチ・アンド・テクノロジー)CTO 兼ボードメンバーの Abraham F. Jalbout (アブラハム F. ジャルボート)氏は日本の市場開拓への意気込みや、2 日目の時点での出展の成果を次のように語った。「マイクロマシン/MEMS 展には、日本でのネットワークを広げるために出展した。日本の学術機関や、大企業に、メキシコが量産地として適していることをアピールしようと考えた。まだ 2 日目であるにも関わらず、MEMS 関連分野の来場者に多数お越し頂き、とても嬉しい。ロボット市場にも今後拡大の余地があると分かったことも、大きな成果である。」

教育ロボットのソフトウェアを出展し、注目を集めたアルデバラン・ロボティクス ジャパン セールス マネージャー 劉 宏偉氏は、初出展のコメントを次のように述べた。「日本のロボット市場への期待が高く、自社製品である教育ロボットのソフトウェアをより多くの人に PR する目的で今回出展を決めた。この先一般ユーザー向けのソフトも開発するかもしれないが、今は大学や大手企業の研究機関の来場者向けに PR を行っている。三見本市合同開催の影響もあり、テレコミュニケーション分野から大学の文学部まで、予想以上に幅広い客層から興味を持って頂き大変満足している。アメリカやヨーロッパでは普及が進んでいるが、今後日本の福祉関連分野にも手を広げて行きたいと考えている。」

同様に初出展の株式会社ディスコ 経営支援室 広報チーム 岩瀬 大介氏は、「弊社はメモリー系の半導体分野では名が通っているが、MEMS チップ加工に最適な製造装置があるにも関わらず MEMS 分野ではあまり知られていない。そこで今回、関連分野から多くの来場者が集まるマイクロマシン/MEMS 展に出展しようと思った。今回初の出展であるが、ターゲットの来場者にたくさん足を運んでもらえ、自社製品を PR するという目的が叶ったので満足している。」と、手応えを語った。

連続出展者の住友精密工業株式会社 産機システム事業本部 営業本部 マイクロテクノロジー営業部 プロダクトマーケティンググループ マネージャー 金尾 寛人氏は、出展の意図や今後の業界のあり方について次のようにコメントした。「弊社はマイクロマシン/MEMS 展の第一回目から出展している。製造装置を販売しているが、MEMS 技術はどんどん応用範囲を広げていかないと市場が広がらず、最終製品の工程にある各企業が互いに協力し、業界を引っ張っていかねばならないと感じる。そのため、三見本市が合同で開催されてからは、製品のための PR ではなく、それがどう応用されるかまでをきちんと説明しており、今までの経験を活かしたトータルソリューションを提供する機会も増えている。弊社の出展目的は、トップシェアメーカーとして見本市を盛り上げること。今後、業界の垣根を越えた技術交流がさらに進展することを期待する。」

次回「第 23 回マイクロマシン/MEMS 展」「第 3 回 ROBOTECH」「SURTECH2012」は、2012 年 7 月 11 日(水)ー13 日(金)に開催する予定。

メサゴ・メッセフランクフルト株式会社
プレス・PR 担当 久野(くの)ノ北島
Tel 03-3512-3277 Fax 03-3262-8442
press@mesago-messefrankfurt.com